

# 生きる効率を競う「可能性」と「確定性」

基本理論：手順進行によって「可能性」は減少し、「確定性」は増大する



越田 正常

Koshida Masatsune

(有)日本囲碁ソフト代表

■大阪府出身。信州大学卒。囲碁講師（アマ6段）。囲碁関西マンガ「岡目八目」の構成企画、学習ソフト「プロの碁」シリーズ、「死活アタック」、「布石定石AI」、対局ソフト「本因坊」、「囲碁初段」、「ミニ碁」、「すぐ碁が打てる」の企画・開発に携わる。インターネット上で、リアル対局場、ボード対局場を運営。著書に『パソコン&インターネット囲碁入門』（新紀元社）、『碁の方程式「基礎編」』（竜王文庫）。E-mail：igosoft@sun-inet.or.jp

## 1. 可能性と確定性

囲碁では、「可能性」と「確定性」という2つの重要な特性があり、この2つの特性を利用しながら戦いが進行していきます。そのことについて、少し詳細に述べたいと思います。

### (1) 2つの特性と勝敗の確定

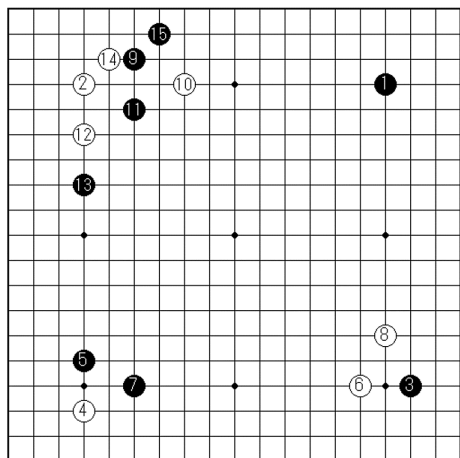
「可能性」とは、「地の囲い合いでも勝てる」という残存価値のことをいいます。また、「確定性」とは、一旦得た権利が、手順の進行によって変化しない状態となることをいいます。「可能性」と「確定性」は、ともに手順進行によって、自然発生的に生まれる事象であり、盤上に石数が増えることで、「可能性」は減少し、正反対に「確定性」は増大する特性があります。これら2つの相反する特性によって、「勝敗の確定」が生まれます。「勝敗の確定」とは、「打つ場所がまだ十分あるのにもかかわらず、もうどこに打っても逆

転ができない状態になる」という事象をいいます。

### (2) 可能性の変化

図1は王座戦の手順図です。4手目から11手目までの「一手ごとの勢力図の変化」から「可能性」がどのように変化するかを考えて

図1 可能性の変化の手順図



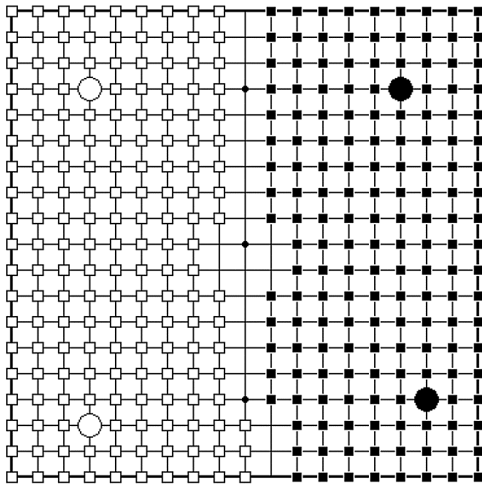
みます。

図2から図9は、4手目から11手目までの勢力図です。図2と図3の比較から4手目と5手目の勢力値の変動の大きさは、黒マイナス6から黒プラス113になっているため、その

差の119が変動値になります（図下カッコ内が変動値）。続けて変動値の大きさを見ると、 $119 \rightarrow 110 \rightarrow 44 \rightarrow 47 \rightarrow 81 \rightarrow 92 \rightarrow 15$ と変化しています。

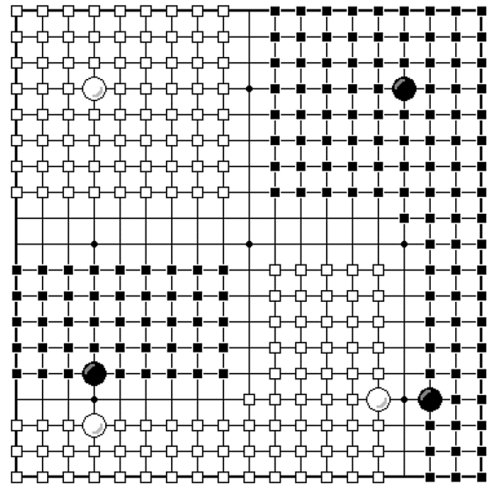
さらに12手目からの勢力値は、

図2 4手目の勢力図



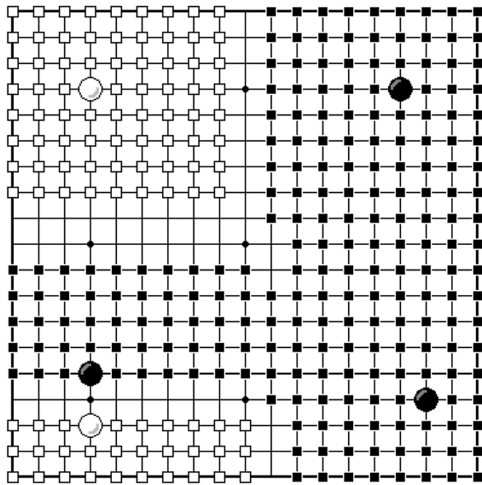
黒：164、白：170 黒-6

図4 6手目の勢力図



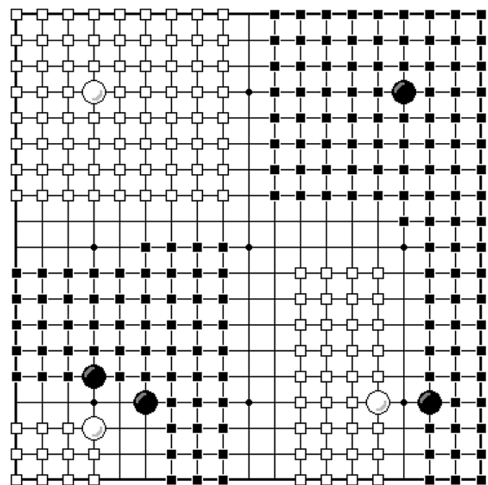
黒：148、白：145 黒+3 (110の変動)

図3 5手目の勢力図



黒：213、白：100 黒+113 (119の変動)

図5 7手目の勢力図



黒：164、白：117 黒+47 (44の変動)